



月刊レオナンドス通信

www.nakanishireo.com/ 平成22年12月号 発行:中西レオ応援団

明石市長フェリーに 1億円のカラ手形!!

たこフェリー(明石淡路フェリー)が休止せざるを得なくなったのは紛れもなく国の政策に責任があまりありません。しかし、明石市長がフェリー経営者に対して「1億円の赤字補填を約束する」と言い放ったカラ手形は、「9月末撤退なら誰にも迷惑をかけずに終わる」というシナリオを狂わせ、再開の可能性にも悪影響を与えました。

6月11日の面談

平成22年6月11日に明石市長、副市長、担当部長、秘書課長とフェリー社長の面談がありました。フェリーの窮状を聞いた市長は「選挙前に明石淡路フェリー廃止というようなショッキングな記事が出たら政治生命に関わる」「1億円でフェリーが存続されるなら、株主として来年度赤字補填することとは約束する」などと話した。フェリー側は事業撤退のシナリオも検討していたが、親会社に1億円の件を伝え、運航継続の手段を模索しました。

果たされぬ約束

しかし、1億円の支援は果たされぬまま時間は過ぎ、親会社は撤退を決定。10月15日に「あさかぜ丸」が売却され、11月15日を最後に船は止まりました。撤退シナリオより1ヶ月半余分に営業した結果、赤字がかさみ、残った「あさかぜ丸」の売却で補填することになりました。9月撤退ならフェリーを1隻残し、引き継いでくれる事業者が使えたのではないかと考えると惜しくてたまりません。

議事録と違う答弁

市長は議会の場で、「支援の約束はしていない」と発言。ところが、市長の1億円支援発言は、議事録として職員が記録しており、これによって市長答弁は事実と違うものと分かり、大きく新聞各紙に取り上げられました。

他でも無責任な発言

他にも、2008年に姉妹都市であるバレホ市への市民団訪米の際、市長と懇意な会社社長夫人を無償で招待。約40万円の旅費について、「国際交流事業に指定寄附をいただいたので、それを旅費に充てた」と答弁したが、後日にそのような指定寄附ではなかったことが判明、社長から市長の後援会に80万円の献金もあった。

軽率な発言は議会内に留まらず、フェリー休止で解雇された従業員への雇用確保を求めた組合に対して「明石市で5名採用できる」と発言しました。その後、何の音沙汰も無い市に対して、相手方は「公式な場でもないし、書面を交わしたわけでもないで・・・」と諦めていました。市長のカラ手形は、明石市の振り出したものです。これ以上、明石市の信用を失墜させる訳にはいきません。

12月の月イチ! 報告会は街頭

日時: 12月28日(火) 10時~12時

場所: 明石駅南口広場にて開催

(雨天時は翌29日(水) 10時~12時)



売却を待つあさかぜ丸。運航しないと一気に寂しく見える (2010年12月9日:明石港)

明石市
議会議員

中西レオの活動報告